

テーマ：『 児童が興味・関心を持って取り組む理科学習 』

横須賀市立 豊島小学校

Tel. 046-822-0105

担当者： 永嶋 裕一



■実践内容：

子ども達が、興味・関心を持って理科の学習に取り組めるような授業について研究をしました。子ども達が興味・関心を持つために、単元の導入時における事象提示の仕方の工夫をしました。研究した単元は、「3年 磁石の秘密を探ろう」「4年 物の温まり方」「4年 電気の働き」「5年 物の溶け方」「5年 電流の働き」「5年 天気の変化・雲の変化」「6年 物の燃え方」です。子ども達が、興味・関心を持つと共に、その事象から子ども達が問題を立ち上げ自分たちで主体的に解決できるような、授業展開を工夫しました。

■実践成果：

子ども達が「調べてみたい。」「どうしてこうなるのだろう。」と疑問を持ち、実験をしてみたいと思わせるような事象を考えることができました。「5年 電気の働き」では、電流を流した導線に磁石を近づけると、導線が動く様子を見て、「なぜ動くのだろうか。」という疑問を持ち、それを解決する方法を考え、実験をして解決することができていました。「6年 物の燃え方」では、ペットボトルの中にろうそくを入れて火をつけ、ペットボトルの蓋を開けた状態にしておくと、火は消えるかという実験を行いました。その中で、子ども達が火は燃え続けると考えていたものが消えてしまい、その疑問について知りたいという気持ちが起こり、意欲的に学習に取り組むことができました。また、「3年 磁石の秘密を探ろう」では、様々な金属を用意して磁石に近づける中で、「金属であれば磁石につくだろう。」という予想に反して、磁石に引き付けられない金属があること実験で知ったことにより、子ども達は興味を示したと同時に、磁石に引き付けられるのは鉄であることについて、実感を伴った理解ができました。

■実践ポイント：

理科の学習では、子ども達にどのような事象に出会わせるが、興味・関心を持たせる上で大切である。また、ただ子ども達が驚き、興味を持つだけの事象ではなく、子ども達が「なぜこうなるのだろう。」「ここをもっと知りたい。」という想いを起こさせ、子ども達はその問題を主体的に解決していくような事象を考える必要がある。また、その提示された事象の問題を解決する上で、その単元で身に付けたい学習内容が学ぶことができるものかどうか、単元計画の段階で吟味しておくことが大事である。